

言語活動の充実に関する実践事例

学校名 (海田町立海田西中学校)

- ① 教科等 国語科 ② 学年 第3学年
- ③ 単元名 敬語
- ④ 本時の目標 場面に応じて、敬語を適切に使うことができる。
- ⑤ 学習の流れ (2時間目/全2時間)

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 前時の復習と本時のねらいの確認をする。		
場面に応じて、敬語を正しく使えるようになる。		
2 敬語の使用上の注意を3点まとめる。 〔個人〕 ・敬語の使い方に問題のある3つの文を掲示し問題点を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を根拠とするよう指導する。 ・謙譲語と尊敬語の区別を想起するよう指導する。 ・問題文の例を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面や相手に応じて謙譲語と尊敬語を正しく使い分けられる。〔話す・聞く能力〕(ワークシート)
① お母さんが先生にお電話なさるそうです。(相対敬語) ② 教室に先生はおりますか。(尊敬語と謙譲語の誤用) ③ 先生がご本をお読みになられていらっしゃる。(二重敬語)		
3 「敬語の使い方マニュアル」を作成する。 〔個人→グループ〕	<ul style="list-style-type: none"> ・場面・相手に応じて正しく使い分けするよう指導する。 ・謙譲語と尊敬語の区別を想起するよう指導する。 	
「学校の代表として、オープンスクールの申込の電話を高校にかける。」		
4 先生紹介 〔個人〕 ・参観者の先生にインタビューして聞いたことをメモし、メモをもとに敬語を使って先生紹介を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・敬語の誤用(①～③)を想起するよう指導する。 	
5 本時の学習を振り返り、敬語の使い方をまとめる。 ・人間関係を潤滑にする。 ・敬意と親疎の度合いがある。	<ul style="list-style-type: none"> ・「場面に応じ、①～③を意識しながら敬語を使うことができたか。」という視点で振り返りをさせる。 ・敬意の度合いについて考えさせ、人間関係との結びつき(親疎)について触れる。 	

〔言語活動の充実〕

設定した言語活動を通して育てたい力

- 話す活動を通して、敬語に対する理解を深め、適切に使うことができるようになる。

言語活動の充実のための指導の工夫

- インタビュー活動を通して、的確に即座に敬語を使って話す力を高める。